

令和 2 年 度  
一関修紅高等学校一般入学試験問題

第 1 時 限

(1月23日 8:50～9:40)

国 語

(注 意)

- 1 「始めなさい。」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 答えは、必ず解答用紙の「答」の欄に記入しなさい。問題用紙に書いても無効です。
- 3 答えは、記号・文字・言葉・文などで書くようになっていきますから、問題をよく読んで、定められたとおりに書きなさい。
- 4 書き誤りをしたときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。はっきりしない答えを書いた場合は、誤りとされます。
- 5 解答用紙の※印の欄（得点の欄）には記入してはいけません。
- 6 時間内に書き終わっても、その場に着席していなさい。
- 7 「やめなさい。」の指示があったら、直ちに書くのをやめ、筆記具を置きなさい。
- 8 問題用紙は、表紙を含めなさいで14ページで、問題は6題です。

〔本文までのあらすじ〕

父を亡くした小学生の田崎啓吉は、貞子(母)と幼い妹と三人で貧しい生活を送っていた。母は生活の苦しさから、たびたび啓吉を寛子(叔母・貞子の妹)のもとへ預けては、家を離れて商売に出ており、そのたびに啓吉は学校を休まなければならなかった。母親の元に戻った啓吉は、久しぶりに登校するが、担任は新しい先生に変わっていた。一時間目、啓吉のクラス(級)で、シェークスピアの戯曲「リヤ王物語」の書き取りが行われていたところに、母親が尋ねて来たため、啓吉は呼び出される。なお、本文中の「伸ちゃん」は寛子の子ども、「勘三」は寛子の夫のことである。

学校へなんぞ来た事のない母親が、何の用事でわざわざ啓吉を尋ねて来たのか、啓吉は不安で仕方なかった。

小使い部屋では貞子が、大火鉢にしゃがみ込んであたっていた。

「まア、お使いだてしたりして、本当に済みません」

小使いに世辞をいうと、貞子はすぐ立ちあがって、

「啓ちゃん、ちよつと」

と、啓吉を、外へ連れ出した。校庭では二組ばかりの体操があつた。ポプラの樹の下に来ると、貞子は白い封筒を出して、

「ねえ、お母さまね、しばらくの間だけど、九州へ行つて来なくちゃならなくなったの。おじさん、御商売が駄目になつてしまつてねえ、とても、大変なのよ。それで、ちよつとの間だけれど、この手紙持つて、寛子叔母様のところへ行っているの、伸ちゃんのお守りをしてあげて、少しの間だからおとなしく待つていらつしやい、判つた？ ええ」

「……」

「今度は啓ちゃん、連れてゆけないのよ。ねえ……」

「遠いの？」

「ああ遠いの、だけどすぐ帰つて来るから……この手紙大切なのよ、いい？」

啓吉はうなずいた。貞子はさすがにしょんぼりしている啓吉を見ると、何となく心痛いものを感じたが、

「じゃ、お教室へ行つてらつしやい。母さんが、いいものを啓ちゃんへ送つてあげようね」

「学校、またお休みすんの？」

「さア、叔母様に相談して、あの近くの学校へ行くようにしてもいいでしょ」

「帰れつていわない？」

「帰れつていったかい？」

「ううん、いわないけど……」

「それごらん、大丈夫だよ、それで勘三叔父さんは、啓ちゃんと仲良しだものねえ」  
体操の組では綱引きが始まった。オーエス、オーエスと呼び声があがっている。

貞子が帰つて行くと、啓吉は白い封筒を襯衣のポケットへ入れて教室へ帰つて来たが、教室ではリヤ王が劇に組まれて、饗庭芳子が、男の声でリヤ王を演じていた。饗庭芳子のリヤ王があん

まりうまいので、啓吉が教室へ這入<sup>はい</sup>って来て誰も振りむかなかった。

先生は陽が縞<sup>しま</sup>になって流れ込んでゐる窓に凭<sup>もた</sup>れて、眼をつぶって對話に聴きとれている。休みの鐘が高く鳴り響いた。

「先生、田口<sup>（注）</sup>さんいけませんのよッ」

「さア、鐘が鳴りましたからおしまいにしましょう。では、この次に、リヤ王の對話を空で出来るようによく復習していらっしやい。それから、書き取りもおさらいして来るンですよ」

先生が、袴<sup>はかま</sup>をさばいて教壇へ歩んで行くと、啓吉は、

「起立！」

と喋って立ち上がった。

「礼」

誰か、くすくす笑って首をさげているようだったが、礼が済んでも先生は、つつ立ったまま出て行かなかった。

「田崎さんと、饗庭さんとちよつと残つて下さい、あとは外へ出て遊ぶこと……」

啓吉と饗庭芳子が残った。先生は椅子<sup>いす</sup>を引き寄せて腰かけながら、

「さア、こつちへいらっしやい！ 先生が変わると、皆の氣持ちがゆるむものですけれど、あなたたちは級長さんと副級長さんですから、先生を助けてしっかりして下さいといけませんよ。饗庭さんも、副級長さんでしょ。黒板なンかにいたずらしないように……」

啓吉も饗庭芳子も赧<sup>あか</sup>くなった。

「田崎さんのお家から、何のご用事でいらっしやったの？」

と先生が、啓吉の襯衣の釦<sup>ボタン</sup>をはめてやりながら訊いた。

「……」

啓吉は黙っていた。優しい先生に、自分の家庭の話をする事は面倒でもあったし、可愛<sup>かわい</sup>らしい饗庭芳子がくりくりした眼をして微笑しているので、何と返事をしていいか判らなかつた。

「どなたかご病氣」

「いいえ——」

「級長さんは随分おとなしいのね」

そう喋って先生が立ちあがると啓吉は、またこの先生にも嫌われてしまったような、淋<sup>さび</sup>しい氣持ちになりながら、自分の机へ行つてぼつんと腰を掛けた。饗庭芳子は先生の袴<sup>はかま</sup>へもつれるようにくつつきながら先生と一緒に廊下へ出て行つてしまつたが、明らかに、啓吉は、自分の孤独さを感じるのであつた。運動場では、マリのように子供達がはずんでいる。

啓吉は落ちつかなかつた。——啓吉は正午の時間になると、先生へ黙つて、ランドセルを背負つたまま裏門から外へ出て行つた。早く帰つて、どんなにしても九州とかいう、遠い土地へ連れて行つてもらおうと思つたのだ。もう心の中では、「母アさん、母アさん」と泣き声をあげていた。

檜葉<sup>ひば</sup>の垣根に添<sup>そ</sup>つて這入<sup>はい</sup>って行くと、家の中が森<sup>しん</sup>としてゐるのが啓吉によく判つた。啓吉は裏口へ廻<sup>まわ</sup>つてみた。雨戸が閉ざされてゐる。節穴<sup>のぞ</sup>から覗いてみたが、中は真暗だつた。啓吉は庭へ立つたまま

しまつたが、自分の影が一寸法師のように垂直に落ちているそばに、

いつかの植木鉢が眼についた。コツンと足で蹴ると、ごろごろと植木鉢が転んで行って、その跡には雌の蟋蟀がしなびたようになって這っていた。小さい雄は、植木鉢の穴からでも逃げたのである。啓吉はしゃがんで、乾物のようになった雌を取り上げると、一本一本びくびくしている脚をむしってみた。

「母アさん！」

返事がなかった。

「母アさんではア……」

四囲が森としているので、声は自分の体内へ降りかかって来た。

大きい声で、再び啓吉は、

「母アさん！」

と呼んでみたが、声が咽喉につかえて、熱いものが眼のふちに溢れ出て来た。本当に皆で九州へ行ってしまったのに違いない。啓吉は、ランドセールにしまいこんだ白い手紙の事を想いだすと、いよいよ自分一人捨てられてしまったような悲しさになった。

小さな風が吹くたび、からからと木の葉が散って来て、誰もいないとなると、自分の家が大変小さく見える。

啓吉は腹が空いたので、ランドセールから弁当を出して沓ぬぎ石に腰を掛けて弁当を開いた。

弁当の中には、啓吉の好きな鮭がはいっていたが、珍しい事に茹で玉子が薄く切って入れてあった。

その玉子を見ると、母親は自分を置いて行く事にきめていたのに違いなかったのだと、また、新しく涙があふれた。

弁当が終ると、啓吉は井戸端へ廻って、ポンプを押しながら、水の出口へ脣をつけてごくごく飲んだ。水を飲んでみると、まだその辺で、「啓吉！」と母親が呼んでくれそうな気がして、母親が始終つかったポンプ押し握るところを、そっと臭いでみた。冷たい金物の匂いがあるきりで母親の匂いはしなかった。啓吉はランドセールを肩にすると、夏の初めにやって来る若布売りの子供のような気がして、何だか物語りの中の少年のように考えられ出して来た。

(林芙美子「泣虫小僧」による)

(注) 田口さんいけませんのよッ……朝、先生が教室に来る前に、饗庭芳子と口げんかし、泥靴のまま机の上に立ち上がったたり、黒板にいたずら書きをした同じクラスの田口七郎兵衛のこと。

(1) 本文中の  には、どのような言葉が入りますか。次のア～エのうちから、最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 小躍りして      イ 途方に暮れて      ウ あっけにとられて      エ 慌てふためいて

(2) 傍線部① 白い封筒 とありますが、その封筒にはどのような内容が書かれていたと思われますか。次の文の  にはあてはまる言葉を三十五字以上四十字以内で書きなさい。(5点)

母親の貞子が

という寛子叔母への依頼。

(3) 傍線部② 陽が縞になって流れ込んでいる とありますが、これはどのような様子を表したものでですか。次のア～エのうちから、最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 陽の光が熱気で蟹気楼せんきろうのようにぼんやりとかすんでいる様子。  
イ 陽の光が教室のほりに反射しながらゆらめいている様子。  
ウ 陽の光が空の厚い雲にさえぎられながら射し込んでいる様子。  
エ 陽の光が窓ガラスの波打つ模様をくつきりと映し出している様子。

(4) 傍線部③ 可愛らしい饗庭芳子がくりくりした眼をして微笑しているので、何と返事をしていいか判らなかつた とありますが、啓吉が返事に困つたのはなぜですか。次のア～エのうちから、最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 啓吉が抱えている深刻な事情に比べて、饗庭芳子の表情があまりに明るく楽しげなものだったから。  
イ 啓吉が自分の家庭のことを話せば、可愛らしく純粋な饗庭芳子の心を傷つけることになると思つたから。  
ウ 啓吉の複雑な家庭状況を話しても、新しく来た担任の先生には理解できないだろうと思つたから。  
エ 母から伝えられたことを担任に話そうと思つたが、啓吉の好きな饗庭芳子には知られたくなかつたから。

(5) 傍線部④ 啓吉はしゃがんで、乾物のようになった雌を取り上げると、一本一本びくびくしている脚をむしってみた。とありますが、この部分から啓吉のどのような思いが読み取れますか。次のア～エのうちから、最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

ア 自分一人だけを残していった母親への恋しさが激しく募ってくる反面、自分を置いて行った母親へのやり場のない怒りを感じている。

イ 母親の愛情を失い家族から一人引き離された今の自分は、干からびた蟋蟀が脚をもぎ取られるのと同じような痛みを感じている。

ウ ようやく母親の元から登校できるようになり、級友たちとの生活に喜びを感じていたのに、再び学校を離れなければならないことに悔しさを感じている。

エ 母親から見捨てられたばかりでなく、担任の先生からも嫌われてしまったように思え、自分でもどうしたらよいかわからないほどの寂しさを感じている。

今、対話とは何かと考えると、どのように説明できるでしょうか。

とても簡単にいえば、「相手と話すこと」ということになるでしょうか。

しかし、一方的に相手に話しかけても、その相手がこちらの言っていることに耳を傾けてくれるかどうかは、だれも保証できません。

相手の目をしっかりと見て、きちんと語りかけること、巷(注)の話し方講座等ではこんなアドバイスがあるかもしれません。そのとき、しばしば出るのは、「思ったことを感じるままに話してはダメだ」という意見ですね。思ったことを感じるままに話すと、お互いに感情的になってしまい、解決すべきことがなかなかうまく運ばない等々。

A、「思ったことを感じるままに話す」ことそれ自体が悪いことだとは、わたしは決して思いません。むしろ「思ったことを感じるままに話すべき」であるとさえ思うほどです。

ただ一つ、思ったことを感じるままに話すと、それがおしゃべりになってしまおうという大きな課題があります。

ここでいう「おしゃべり」とは、相手に話しているように見えながら、実際は、相手のことを考えない活動だからです。少しむずかしくいうと、他者不在の言語活動なのです。

でも、相手があつて話をしているのだから、他者不在とはいえないのではないかという質問も出そうですね。

B、「おしゃべりをしているときは、相手に向かって話しかけてはいますが、ほとんどの場合、何らかの答えや返事を求めて話しているのではなく、ただ自分の知っている情報を独りよがり話しているだけではないでしょうか。そこでは、他者としての相手の存在をほぼ無視してしゃべっているわけです。だからこそ、思ったことを感じるままに話すことには注意が必要なのです。」

「あのことが、うれしい、悲しい、好きだ、嫌いだ」というように、自分の感覚や感情をそのままことばにして話していても、相手は、「へえー、そうですか」と相槌(注)を打つだけ。今度は相手も自分の思いを語りはじめ、それぞれに感じていることや思っていることを吐き出すと、お互いなんだかすっきりして、なんとなく満足する。こういうストレス発散の点では、おしゃべりもそれなりの効果をもっていますが、その次の段階にはなかなか進めません。

このように、いわゆるおしゃべりの多くは、かなり自己完結的な世界の話ですから、そのままでは、それ以上の発展性がないのです。その意味では、おしゃべりは、相手に向かって話しているように見えても、実際は、モノローグ(独り言)に近いわけでしょう。表面的には、ある程度、やりとりは進むように見えますが、それは、対話として成立しません。ここにモノローグであるおしゃべりとダイアログとしての対話の大きな違いがあるといえます。

ちよつと余談になりますが、カルチャーセンターの講演会や大学の講義などでも、こうしたモノローグはよく見られます。本来、聴衆や学生に語りかけているはずなのだけれど、実際は、自分の関心事だけを自己満足的にとうとうと話している、これはまさにモノローグの世界ですね。

これに対して、ダイアログ(注)としての対話は、常に他者としての相手を想定したもののなのです。自分の言っていることが相手に伝わるか、伝わらないか、どうすれば伝わるか、なぜ伝わらない

のか、そうしたことを常に考えつづけ、相手に伝えるための最大限の努力をする、その手続きのプロセスが対話にはあります。

対話成立のポイントはむしろ、話題に関する他者の存在の有無なのではないかとわたしは考えます。実際のやりとりには他者がいるかどうかだけではなく、話題そのものについても「他者がいる話題」と「いない話題」があるということなのです。つまり、その話題は、他者にとってどのような意味を持つかということが対話の進展には重要だということです。

したがって、ダイアログとしての対話行為は、モノログのおしゃべりを超えて、他者存在としての相手の領域に大きく踏み込む行為なのです。

言い換えれば、一つの問題をめぐって異なる立場の他者に納得してもらうために語るという行為だともいえますし、ことばによって他者を促し交渉を重ねながら少しずつ前にすすむという行為、すなわち、人間ならだれにでも日常生活や仕事で必要な相互関係構築のためのことばの活動だといえるでしょう。

では、このようなダイアログとしての対話<sup>③</sup>によって人は何を達成することができるのでしょうか。あるいは、今、対話について考えることは、わたしたちにとってどのような意味を持つのでしょうか。

まずあなたは対話ということばの活動によって相手との人間関係をつくっています。

その人間関係は、あなたと相手の二人だけの関係ではなく、それぞれの背負っている背景とながっています。

その背景は、それぞれがかかっているコミュニティ(注3)と深い関係があります。

相手との対話は、他者としての異なる価値観を受け止めることと同時に、コミュニティとしての社会の複数性、複雑さとともに引き受けることにつながります。

だからこそ、このような対話の活動によって、人は社会の中で、他者とともに生きることを学ぶのです。

このように、対話は、個人と個人が何かの話題について話し合うことだけではなく、それぞれの個人がことばを使って自由に活動できる社会の形成へという可能性にもつながっていきます。

**C**、ことばを使って自分の考えていることを他者に伝えるという行為は、自分自身の個人的な私的領域から他者という未知の存在へ働きかける公的領域への行為だからです。

あなたにとっての対話という活動は、あなた自身がことばを使って自由に活動できる社会の形成のための重要なカギになるといえるでしょう。

(細川英雄「対話をデザインする」による)

(注1) 巷ちまた……街中、世の中、世間。

(注2) 相槌あいづちを打つ……相手の調子に合わせて、受け答えをする。

(注3) コミュニティ……共同体、地域社会。



(1) 本文中の **A**、**B**、**C** には、それぞれのどのような言葉が入りますか。その組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア A つまり B しかし C だから  
イ A しかし B たしかに C なぜなら  
ウ A もちろん B でも C また  
エ A けれども B そして C ところで

(2) 傍線部① おしやべり とありますが、筆者が考える「おしやべり」とはどのようなものですか。

次の文の空欄にあてはまる言葉を、**a** は六字で、**b** は八字で、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。(3点×2)

「おしやべり」は、**a** の効果はあるが、**b** であるため、対話として成立しないもの。

(3) 傍線部② ダイアログとしての対話 とありますが、それはどのような行為だと述べていますか。次のア～エのうちから、最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 他者存在としての相手の領域にあまり踏み込まないようにする行為。  
イ 話題に関する他者の存在の有無をお互いに議論して進展させる行為。  
ウ 自分の考えより常に相手を想定しながら他者の意見を尊重する行為。  
エ 立場の異なる他者に自分の考えを理解してもらうよう努力する行為。

(4) 傍線部③ 対話 によってどのような社会が作られますか。そのことが述べられている部分を、本文中から二十五字でそのまま抜き出し、その最初の八字を書きなさい。(4点)

(5) 次のア～エのうち、本文の展開について説明しているものとして、最も適当なものはどれですか。一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

- ア 冒頭に「対話」とは何かといった問題提起を挙げ、その後「おしやべり」と比較しながら「対話」とは何かを説明し、最後にその「対話」という活動の重要な意義が述べられている。  
イ 冒頭に「対話」とは何かといった筆者の主張が述べられ、その後「おしやべり」と「対話」の違いをもとにその根拠を説明し、後半では「対話」という活動の重要性を訴えている。  
ウ 後半では「対話」の重要性が繰り返し説明されていて、冒頭はそのための根拠部分になっている。中盤は特に「おしやべり」と「対話」の共通点と相違点を挙げて比較説明している。  
エ 後半では「対話」とは何かといった筆者の主張が述べられ、冒頭では「おしやべり」と比較しながら「対話」との違いを説明し、中盤で良い「対話」をするための方法を語っている。

3

次の正岡子規の俳句について、あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

(15点)

- ① 雨晴れて鶏陽炎の土を掘る
- ② 学校の昼静かなり百日紅
- ③ 昨日見た処にはなし雪だるま
- ④ 啼きながら蟻にひかるる秋の蝉
- ⑤ 嬉しさうに忙しさうに稲雀
- ⑥ 秋の蚊のよろよろと来て人を刺す

(夏井いつき「子規365日」による)

(1) 次は俳句についての説明文です。説明文の **a** ～ **c** にあてはまる言葉を書きなさい。ただし、**a** は漢字二字で書きなさい。

(2点×3)

俳句は五・七・五の計十七音に集約された **a** 詩の一種である。同じ十七音で構成されている川柳と異なる点は、季節を表すことばである季語が句の中に読み込まれることである。俳句 **⑤** では **b** が季語であり、季節は **c** と読み取れる。

(2) 次の文は、俳句 **①** ～ **③** について述べた筆者(夏井いつき)の鑑賞文である。鑑賞文の **1** ～ **3** には、どのような言葉が入りますか。あとの【語群】ア～ケのうちから、それぞれ一つずつ選び、その記号を書きなさい。

(2点×3)

俳句 **①** 「雨晴れて」後の湿気を含んだ熱気。 **1** と蒸れる「陽炎の土」。それを掘り返す「鶏」の臭い。全てが読者の五感をリアルに刺激する作品だ。

俳句 **②** この句を初めて読んだ時の既視感を今もありありと思いつく。静まりかえった **2**。白く乾ききったグラウンド。炎天に身じろがぬバックネット。吹き起こる熱風にくらりと揺れ始める「百日紅」。元中学校の教員であった私は、子規のこの十七音を媒介として、あの暑い **2** のざらざらした壁の感触まで思い出してしまふのだ。

俳句 **③** 例えばこの一句。「昨日」という時間情報、「見た処」という場所情報、そこには何も「なし」と言い切った後に、 **3** 情報を持つ季語「雪だるま」が出現すると、一句の世界は生き生きと動き出す。昨日、「雪だるま」を作っていた子供たちの声や、「今日はもう解けたか」なんて小さな思いが一句の世界を豊かに彩り始める。

【語群】

- |   |      |   |      |   |      |
|---|------|---|------|---|------|
| ア | ぐらぐら | イ | くらくら | ウ | ゆらゆら |
| エ | 公園   | オ | 校舎   | カ | 通路   |
| キ | 映像   | ク | 音声   | ケ | 色彩   |

(3) 次のA～Dは、俳句④～⑥について説明したものです。それぞれの俳句の説明の組み合わせとして最も適当なものはどれですか。あとのア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。

(3点)

- A 双方の生への強い執着心
- B 大勢で作業をする協働性
- C 群れて飛び移る躍動感
- D 余力わずかのもの悲しさ

ア	俳句④	俳句④	俳句④	俳句④
イ	俳句④	俳句⑤	俳句⑥	俳句⑥
エ	俳句④	俳句⑤	俳句⑥	俳句⑥
ウ	俳句④	俳句⑤	俳句⑥	俳句⑥
エ	俳句④	俳句⑤	俳句⑥	俳句⑥
	B	D	A	D

むかし、男、かたるなかにすみけり。男、宮仕へしにとて、別れ惜しみてゆきけるままに、  
片田舎に住んでいた。 宮中勤めをしに行くといつて、(女と別れ惜しんで)

三年来ざりければ、待ちわびたりけるに、いとねむごろにいひける人に、  
帰って来なかったので、待ちくたびれて、 とても心をこめて求婚してきた人に、

「今宵<sup>①</sup>あはむ」とちぎりたりけるに、この男来たりけり。「この戸あけたまへ」とたたきけれど、  
約束をしていたところ、 「この戸をあけてください」とたたいたが、

あけて、歌をなむよみていだしたりける。

歌を詠んで差し出したのだった。

② あらたまのとしの三年を待ちわびてただ今宵こそ新枕<sup>にいまくら</sup>すれ

わたくしはちよと今夜、新枕をかわすのです

といひいだしたりければ、  
と詠んで差し出したところ、

あづま弓ま弓つき弓年を経てわがせしがごとうるはしみせよ  
年月を重ねて、わたくしがあなたを愛したように、新しい夫に親しんでくださいよ。

といひて、いなむとしければ、女、  
と詠んで、 立ち去ろうとしたので、

③ あづま弓引けど引かねどむかしより心は君によりにしものを<sup>④</sup>

といひけれど、男かへりにけり。女いとかなくして、しりにたちておひゆけど、  
と詠んだが、

えおひつかで、清水のある所にふしにけり。そかなりける岩に、およびの血して書きつけける。  
たおれ伏してしまった。 指の血で書きつけた。

あひ思はで離れぬる人をとどめかねわが身は今ぞ消えはてぬめる  
わたくしの思いが通わないうで、 引きとめぬることができなくて、

と書きて、そこにいたづらになりにけり。  
その場、

(「伊勢物語」による)

(1) 傍線部① あはむ とありますが、ここではどのようなことを約束したのですか。次のアとエのうちから、最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 食事をすること
- イ 結婚をすること
- ウ 争いをする事
- エ 相談をすること

(2) 傍線部② あたまの、③ あづさ弓 はそれぞれ「とし」、「引く」を導き出す言葉です。このような修辞法(表現技法)を何といえますか。次のアとエのうちから、最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 序詞
- イ 掛詞
- ウ 縁語
- エ 枕詞

(3) 傍線部④ 心は君によりにしものを とありますが、女はどのようなことを男に伝えたのですか。次のアとエのうちから、最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 女は男を憐れんでいたということ
- イ 女は男に愛想が尽きていたということ
- ウ 女は男に心が傾いていたということ
- エ 女は男に嘘をついていたということ

(4) 次のアとエのうち、本文の内容を説明しているものとして、最も適当なものはどれですか。一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

- ア 別の男と一緒に暮らすことを宮中勤めから戻った男に伝えた女だったが、心配で追いかけると男は遺書を残して死んでいた。
- イ 宮中勤めから戻った男を思い慕う女の気持ち伝わらず、男を追いかけて事情を説明するが二人は結局別れることになった。
- ウ 男が宮中勤めから戻ることを持ち望んでいた女だったが、男を追い返したことを後悔し、追いかけて何とか説得して仲直りした。
- エ 宮中勤めから戻った男と会わなかった女だったが、実は男を思い慕っていて引き止められなかったことを苦に死んでしまった。

左の記事で紹介されているように、昨年五月から元号が「平成」から「令和」に改められ、二〇一九年の和暦は「令和元年」と表記されるようになりました。私たちは、生年月日を表す際や歴史の学習など日常生活のいろいろな場面で、「和暦」と「西暦」を併用して使っています。このことについて、あなたはどのように考えますか。次のAとDのうちから、いずれかの立場を一つ選び、そう考えた理由を五十文字以上六十文字以内で書きなさい。ただし、後の【書き方の条件】(1)～(3)に従って書くこと。

(8点)

- A これまで通り、和暦表記と西暦表記の併用でよい。  
 B 和暦表記をやめ、西暦表記に統一するべきである。  
 C 西暦表記をやめ、和暦表記に統一するべきである。  
 D 和暦・西暦表記の双方をやめ、新しい年号単位を作るべきである。

## 電子号外

2019年(平成31年)  
4月1日(月)  
岩手日報社 盛岡市内丸3-7

## 岩手日報

電子号外は岩手日報ホームページ(<https://www.iwate-np.co.jp/>)でもご覧になれます。

# 新元号は「令和」



新元号「令和」を発表する菅官房長官  
4月1日午前11時41分、首相官邸

政府は1日、「平成」に代わる新元号を「令和」と決定した。今の天皇陛下が改元政令に署名され、同日中に公布。4月30日の天皇陛下退位に伴い、皇太子さまが新天皇に即位する5月1日午前0時に施行される。皇位継承前の新元号公表は憲政史上初めて。「大化」(645年)から数えて248番目の元号で、1979年制定の元号法に基づく改元は「平成」に続いて2例目となる。

改元は天皇一代に一つの元号とする「一世一元」制が採用された明治以降、天皇逝去に伴う皇位継承時に行われてきた。今回は退位特例法に基づき、逝去によらない改元となる。

元号選定手続きは平成改元時を基本的に踏襲した。政府は元号候補名の考案を依頼する専門家数人を「国文学、漢文学、日本史学、東洋史学」の分野から選び、3月14日付で正式委嘱。候補名から数

個の原案に絞った。

1日にはノーベル賞受賞者の山中伸弥京都大教授ら有識者9人による「元号に関する懇談会」を首相官邸で開いて意見を聞き、衆参両院の正副議長の意見も聴取して改元政令を閣議決定した。政府は国会から特例法の付帯決議で「改元に伴って国民生活に支障が生じないようにする」と求められた点を重視した。

### 【書き方の条件】

- (1) 解答用紙の「立場」の欄に、AとDのうちあなたが選んだ記号を一つだけ書くこと。  
 (2) 書き出しは一字空けずに、一文で書くこと。  
 (3) 文末は、「〜から。」で終わること。

## 6

次の(1)～(10)の傍線部について、漢字の場合は正しい読みをひらがなで書き、カタカナの場合はそれぞれにあたる漢字をかい書で正しく書きなさい。

(2点×10)

- (1) ただ怒るのではなくどうすべきかを論す必要がある。
- (2) 仙台にある百貨店の催し物会場に家族で出かける。
- (3) 金銭・物品の出納を記録して帳簿につける。
- (4) 田んぼには鳥や獣を追い払う案山子が立っている。
- (5) 「練習中には水を飲むな！」は時代錯誤と言える。
- (6) 都会を離れた山里で、大迫力の満天の星をアオギ見る。
- (7) 高校入試の面接試験で入学後のホウフを語る。
- (8) 私の高校のよき伝統はテッテイした挨拶にある。
- (9) キツサ店でコーヒーを飲みながら友達と談笑する。
- (10) 時間がないのでタントウチヨクニユウに意見を述べる。

